



アルツハイマー病に合併するてんかん治療と認知機能低下との関連についての調査研究

～ てんかん治療を受けた患者では、認知機能低下が緩やかである可能性が示唆された ～

2026年 2月 6日

国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター（理事長：荒井 秀典。以下 国立長寿医療研究センター）脳神経内科部の横井克典らの研究グループは、アルツハイマー病（注1）に合併する「てんかん」（注2）を抗てんかん薬で治療することで、認知機能の低下が緩やかになる可能性があることを明らかにしました。

概要および研究成果

アルツハイマー病では、記憶障害などの認知症症状に加えて、脳の神経が過剰に興奮し、「てんかん」を合併することがあります。しかし、てんかんを合併した患者さんに対する治療が、認知機能の経過にどのような影響を与えるのかは、これまで十分に分かっていませんでした。

本研究では、「てんかんを合併したアルツハイマー病患者」と「てんかんを合併していないアルツハイマー病患者」を比較し、認知機能の低下の進み方に違いがあるかを、実際の診療データを用いて検討しました。

国立長寿医療研究センターのもの忘れ外来を受診し、アルツハイマー病と診断された538人を対象に、最大約2年間にわたる認知機能としてMMSE（注3）の変化を解析しました。

てんかんを合併した患者さんの多くは抗てんかん薬のみを内服しており、認知機能低下の進行した一部で抗認知症薬を併用していました。一方、てんかんを合併していない患者さんのほとんどは抗認知症薬による治療を受けていました。

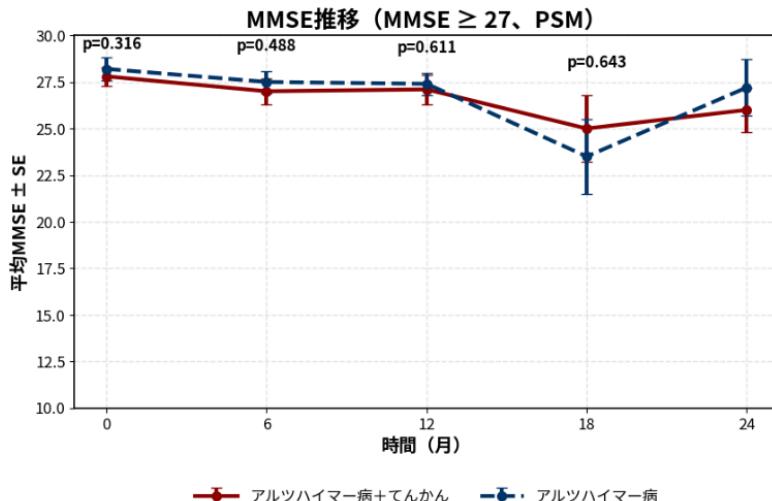
その結果、認知機能の低下が軽度の段階（図b）では、てんかんを合併し抗てんかん薬による治療を受けていた患者さんのほうが、てんかんを合併していない患者さんに比べて、記憶力や判断力の低下が明らかに緩やかであることが分かりました。

（図b、12ヶ月、24ヶ月）

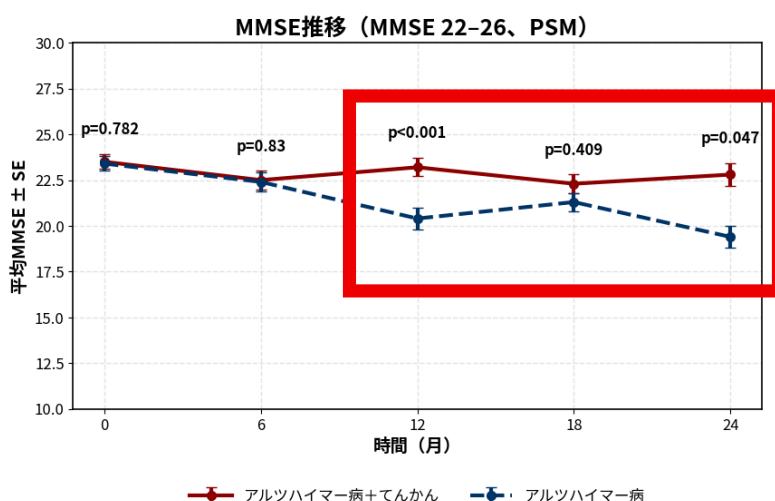
一方で、認知機能低下がかなり進行した段階（図c）や、ほぼ正常に近いごく早期の段階（図a）では、両群の間に明確な差は認められませんでした。（図参照）



(a)



(b)



(c)

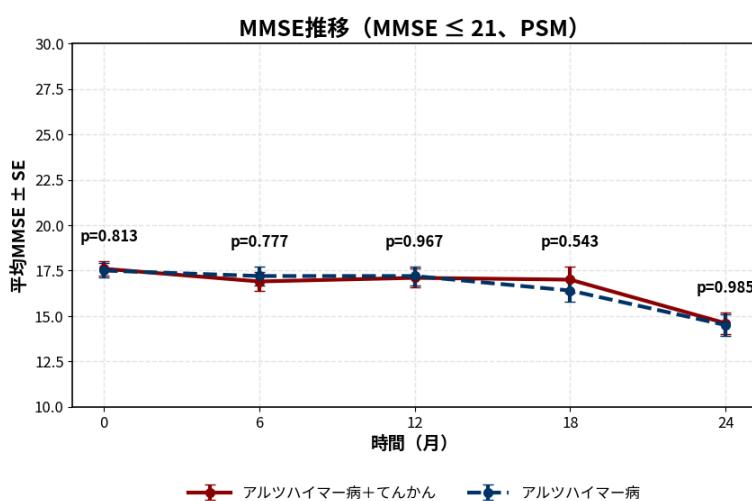




図. a～c 治療に伴うMMSEの推移の比較

(a) MMSE ≤ 21 、(b) $22 \leq \text{MMSE} \leq 26$ 、(c) $27 \leq \text{MMSE}$

赤実線： アルツハイマー病+てんかん患者のてんかん治療介入(一部抗認知症薬併用)した場合のMMSEの推移

青点線： アルツハイマー病患者の認知症治療介入(抗体療法は除く)の場合のMMSEの推移

研究成果のまとめ

今回の研究により、アルツハイマー病に合併する「てんかん」を適切に治療することが、認知機能低下の進行を緩やかにする可能性が示されました。

アルツハイマー病の患者さんでは、「ぼんやりする」「急に反応が鈍くなる」といった症状が、単なる認知症の進行ではなく、てんかんが関与している場合があります。

本研究は、こうした症状を見逃さず、脳波検査や脳磁図検査を行う事なども含め適切に評価・治療することの重要性を示しています。

今後、前向き研究などを通じて、どのような患者が最も治療の恩恵を受けるのかをさらに明らかにし、アルツハイマー病の診療の質向上につなげることが期待されます。

用語解説

注1. アルツハイマー病：記憶力や判断力が徐々に低下していく代表的な認知症。高齢者に多く、日本でも患者数が増え続けています。

注2. てんかん：脳の神経が一時的に過剰に興奮することで起こる病気。けいれんだけでなく、意識がぼんやりする、反応が鈍くなるなど、目立たない症状の場合もあります。

注3. MMSE（ミニメンタルステート検査）：記憶力や計算力などを簡単な質問で調べる認知機能検査で、認知症診療の現場で広く用いられています。

30点満点で評価され、一般に点数が高いほど認知機能が保たれていると考えられます。点数の解釈には年齢や教育歴などの影響があるため、一定の目安として用いられます。本研究では、事前に行ったスライディングスケール解析において、MMSE 22-26点の範囲で治療介入による認知機能の差が最も明瞭に認められたため、この範囲を中心層別解析を行いました。

論文情報

本研究成果は、専門学術誌「Journal of Alzheimer's Disease」に掲載されました。



著者

Katsunori Yokoi, Masashi Tsujimoto, Keisuke Suzuki, Akinori Takeda, Kentaro Horibe, Eriko Imai, Kazunori Imai, Nao Hatakeyama, Eriko Okada, Akinori Nakamura, Masahisa Katsuno, Yutaka Arahata

タイトル

Antiseizure therapy attenuates cognitive decline in Alzheimer's disease: A retrospective cohort study

雑誌

Journal of Alzheimer's Disease

【リリースの内容に関するお問い合わせ】

＜この研究に関すること＞

国立長寿医療研究センター病院 脳神経内科

電話 0562(46)2311 (代表) E-mail : katsu-y@ncgg.go.jp

＜報道に関すること＞

国立長寿医療研究センター総務部総務課 総務係長（広報担当）

〒474-8511 愛知県大府市森岡町七丁目430番地

電話 0562(46)2311 (代表) E-mail webadmin@ncgg.go.jp